

WS 概要および公募要領

第2回 学術知共創プロジェクトワークショップ-WS 参加希望の方へ

テーマ：新たな人類社会を形成する価値の創造——AI と倫理

テーマ代表者：京都大学大学院文学研究科 教授 出口康夫

1 本ワークショップのテーマと背景

ポスト冷戦も終わり、新たな世界秩序が模索されているなか、今後30年～50年の世界においては、人口動態の変化や気候変動、科学技術の更なる進展等により、日々の生活だけでなく、国家像そのものの変容もたらされ、結果として地球規模での人類社会の価値の見直しと再創造が一層進むものと思われまます。

具体的には、19世紀以降急速な発展を遂げてきた科学技術が、今後さらに加速度的に進化し、「技術的特異点(Singularity)」に代表されるような、社会環境の劇的な変化をもたらす可能性が指摘されています。また「人新世 (Anthropocene)」という新たな地質区分の提唱に象徴されるように、人類の活動と地球環境の関係の均衡をいかに保っていくかという地球環境問題が、現在、喫緊の課題として再浮上してきています。これらは、人類社会の価値の見直しと再創造を考えるうえで避けられないトピックでしょう。

一方、今後の世界においては、脱西洋一極主義の動きがより一層強まり、多極化、多元化がますます進展して行くことが予想されます。さらに人類がこれまで行ってきた価値の創造が、特定の社会や文化や歴史を踏まえたものであったことを思えば、上述のような地球的規模の課題に取り組む際にも、多様な価値観への目配りが求められることになるでしょう。

このような状況下、非西洋圏において独自の近代化を成し遂げ、その正負の両面を身を以て体験した日本の学術知、なかんずく人文学が、新たな人類社会を構想する多元的な価値観の創造にいかに関与し、どのような役割を担うことができるかについて考えることは、今日、極めて有意義であると言えます。

このような問題意識の下、今回のワークショップでは、「AI と倫理」をテーマに、西洋的な人間観に回収されない日本発アジア発の人間観を組み込んだ「混生」的共同体を構築する可能性について議論し、研究者のみならず社会の実務者をも取り込むことで、異分野融合に挑戦するユニークな研究チームの発足につなげたいと考えています。

2 方法とグループ設定について

本ワークショップでは、「AI と倫理」という共通テーマの下、具体的な AI 倫理綱領の構想、AI と人間が共存する社会の制度設計、AI の登場によってもたらされる人間の実存の危

機の克服という、位相とスコープを異にする三つの問題に焦点を当てた議論を展開したいと考えています。参加者の皆さんには、これら三つの問題の各々をテーマとするグループに分かれて議論を深めた後、それぞれの論点を重ね合わせることで、AI と倫理に関する重層的な視点と問題意識を共有して頂くことを目指しています。

また、WS 終了後に、40 代以下の若手研究者に残っていただき、若手研究者セミナーを開催する予定です(16:00~17:30 を予定)。開催プログラムは、あらかじめ設定したテーマについてグループディスカッションを行う予定です (WS 概要およびプログラム詳細は後半に記載してあります)

グループ 1 - AI 倫理綱領の構想：2019 年 3 月、内閣府が「人間を中心とした AI 社会原則」を制定し、同年 5 月には世界開発機構 (OECD) が「AI に関する OECD 原則」を打ち出しました。このような流れを受けて、現在、日本の様々な企業や機関が、独自の「AI 倫理綱領」の作成を進めています。以上の状況を踏まえ、本グループでは、様々な社会的な立ち位置や役割に応じた「AI 倫理綱領」を具体的に構想するチームの構築を目指しています。

グループ 2 - パラヒューマン社会の未来図：AI やロボットが隅々にまで実装される近未来社会。それはまた、人間と同等以上の能力を持ち、場合によっては「人格」すらも兼ね備えたノンヒューマン・エージェントが人間と共存し、共生する「パラヒューマン社会」でもあります。本グループでは、「このようなパラヒューマン社会はいかに構築されるべきか」を、法制度をも含めた様々な社会制度設計の観点から議論します。

グループ 3 - シンギュラリティ問題と実存の危機：現在、AI の進化がもたらす「シンギュラリティ (技術的特異点)」によって、多くの人々が職を失う大量失業時代が到来することが危惧されています。しかし「シンギュラリティ」は、人間の「かけがえのなさ」ないしは尊厳の最後の砦であった知的能力が人工物によって凌駕されることで、人間の存在意義すらが見失われかねない事態を惹起する危険性もはらんでいます。本グループでは、このような人間の实存の危機にいかに対処すべきかを議論したいと思います。

このようなグループ設定のもとで、ワークショップへの参加希望者を募りたいと思いますので、参加を希望する方は、以下の要領にしたがって応募してください。

3 若手研究者セミナーについて（プログラムは下記参照）

ワークショップ終了後に、40代以下の若手研究者を対象に若手研究者セミナーを実施します。参加のための申請書の中でアンケートをとる、SDGsおよび本ワークショップの興味ワードのうち注目が高かった項目をディスカッションのテーマとすることとします（具体的なテーマは当日発表します）。90分ほどと短い時間ではありますが、若手研究者の見識を広げる場となることを願います。

4 その後の展開について

ワークショップ終了後に研究チーム構築についてテーマ代表者、チームリーダー候補および事務局が有機的に連携し、研究計画の策定および外部資金獲得に向けた戦略会議を開始します。

●ワークショップ概要

- 日時：2021年1月25日（月）13時～15時30分
- 場所：オンラインによる開催
- プログラム：下記参照
- 対象：本ワークショップの目的に賛同する研究者および社会の実務家
- 定員：30名程度（参加には事前に応募が必要です）
- 参加応募方法：専用サイトからオンラインによる申し込みをお願いします。
- 公募期間：2020年12月25日～2021年1月15日（オンライン申込）
- 参加費：無料
- 主催：大阪大学社会ソリューションイニシアティブ

●ワークショップへの参加応募方法

- ①ワークショップでは前半に参加者全員に1分間の自己紹介をしていただく予定です。本サイトから「自己紹介シート」(pptファイル)をダウンロードいただき、必要事項を記入したのちにpptファイルをPDF化したものを参加応募フォームよりアップロードしてください。
- ②自己紹介シートには、自由記入欄に「自己紹介」「研究紹介」「WS参加の動機、研究関心」などを記入してください。
- ③参加応募フォームでは、お名前などの「基礎情報」のほか、「付随情報」として、SDGs、WSに関連するキーワード、および「OOな社会を目指したい」については若手研究者セミナーのテーマ選定に参考にさせていただきたいと考えております。ぜひ回答にご協力ください。
- ④「オンラインでの開催となるため、より参加者の皆様がお互いを認識できるよう顔写真の掲載に御協力ください（差し支えのある場合は不要です）。ご協力いただける場合、自己紹介シートに添付して下さい。
- ⑤ワークショップ終了後に40代以下の若手研究者に残っていただき、若手研究者セミナーを開催します(16:00～17:30を予定)。形式はテーマに関するグループディスカッションを行う予定です。プログラム詳細は別紙をご参照ください。
- ⑥応募を多数いただきました場合には、プロジェクト・マネージャー及びテーマ代表者の下で、議論の多様性を確保するなどの観点から御参加いただく方を限定させていただく場合がございますこと、予めご了承ください。

<申込・お問合せ先>

学術知共創プロジェクト事務局：

お問い合わせ：専用サイトのお問い合わせフォームよりお願いいたします。

学術知共創プロジェクト専用サイト URL: <https://gakujututi.ssi.osaka-u.ac.jp/>

～プログラム～

【第2回 学術知共創プロジェクトワークショップ】

テーマ：新たな人類社会を形成する価値の創造——AIと倫理

司会進行：小出 直史（大阪大学 SSI 特任講師）

13:00 - 13:10 開会挨拶

盛山 和夫（東京大学 名誉教授）

堂目 卓生（SSI長・大阪大学大学院経済学研究科 教授）

13:10 - 13:15 テーマ代表者挨拶

出口 康夫（京都大学大学院文学研究科 教授）

13:15 - 13:45 参加者フラッシュトーク

13:45 - 14:00 提案者トーク

14:00 - 14:15 休憩（時間調整）

14:15 - 15:00 グループディスカッション

①AI 倫理綱領の構想

②パラヒューマン社会の未来図

③シンギュラリティ問題と実存の危機

15:00 - 15:10 振り返り

15:20 - 15:30 閉会挨拶

出口 康夫（京都大学大学院文学研究科 教授）

【若手研究者セミナー】

司会進行：小出 直史（大阪大学 SSI 特任講師）

●プログラム

16:00 - 16:10 開会挨拶

出口 康夫（京都大学大学院文学研究科 教授）

16:10 - 17:20 グループディスカッション

①AI 倫理綱領の構想

②パラヒューマン社会の未来図

③シンギュラリティ問題と実存の危機

17:20 閉会挨拶

出口 康夫（京都大学大学院文学研究科 教授）